

CREO

クレオ大阪中央
大阪市立男女共同参画センター中央館
女性総合相談センター／研究室
チャレンジカフェ／女性チャレンジ応援拠点

〒543-0002 大阪市天王寺区上汐 5-6-25
TEL06-6770-7200 FAX06-6770-7705



大阪メトロ谷町線「四天王寺前」駅 1・2号出口徒歩約3分

クレオ大阪南
大阪市立男女共同参画センター南部館

〒547-0026 大阪市平野区喜連西 6-2-33
TEL06-6705-1100 FAX06-6705-1140



大阪メトロ谷町線「喜連瓜破」駅 1号出口徒歩約5分

クレオ大阪YouTubeチャンネル
YouTube ジャンプちゃん→



クレオ大阪子育て館
大阪市立男女共同参画センター子育て活動支援館

子育て相談／男性相談

〒530-0041 大阪市北区天神橋 6-4-20 (7階)
TEL06-6354-0106 FAX06-6354-0277



大阪メトロ谷町線・堺筋線「天神橋筋六丁目」駅 3号出口直結/JR大阪環状線「天満」駅徒歩約10分

クレオ大阪東
大阪市立男女共同参画センター東部館

チャレンジスタジオ

〒536-0014 大阪市城東区鳴野西 2-1-21
TEL06-6965-1200 FAX06-6965-1500



JR 大阪環状線・東西線・学研都市線「京橋」駅南口徒歩約7分 / 大阪メトロ長堀鶴見緑地線「大阪ビジネスパーク」駅4号出口徒歩約9分 / 京阪本線「京橋」駅中央口徒歩約11分

クレオ大阪ホームページ
https://www.creo-osaka.or.jp



クレオ大阪西
大阪市立男女共同参画センター西部館

こども文化センター
大阪市しごと情報ひろばクレオ大阪西・マザーズ

〒554-0012 大阪市此花区西九条 6-1-20
TEL06-6460-7800 FAX06-6460-9630



JR大阪環状線・阪神なんば線「西九条」駅徒歩約5分

開館時間・休館日

クレオ大阪中央・南・東
開館時間：9:30～21:30
休館日：月曜日(祝休日の場合開館)
祝休日の翌日(日曜日・祝休日の場合開館)
年末年始(12/29～1/3)

クレオ大阪西
開館時間：9:00～21:30
休館日：月曜日(祝休日の場合翌日)
年末年始(12/29～1/3)

クレオ大阪子育て館
開館時間：平日 10:00～21:00
土・日・祝休日 10:00～17:00
休館日：年末年始(12/29～1/3)
※臨時開館、臨時休館となる場合がありますので、ホームページ等にてご確認ください。

情報誌 クレオ
バックナンバー
https://danjo.osaka.jp/wp



女性の悩み相談

電話相談 06-6770-7700
火～土10:00～20:30 日・祝休10:00～16:00

面接相談予約 06-6770-7730
火～金10:00～20:30 土・日・祝休10:00～16:00
※メールによる相談も行っています



男性の悩み相談

電話相談 06-6354-1055
毎週(金)19:00～21:00 毎月第3(日)11:00～17:00

面接相談予約 06-6770-7723
火～金10:00～20:30 土・日・祝休10:00～16:00



子育て相談

電話相談 06-6354-4152
平日10:00～21:00 土・日・祝休10:00～17:00
※メールによる相談も行っています



DV相談(ドメスティック・バイオレンス)
大阪市配偶者暴力相談支援センター

電話相談 06-4305-0100
平日9:30～17:00
※メールによる相談も行っています



大阪市女性のつながりサポート LINE 相談

LINE相談 水14:00～20:00 日10:00～16:00
LINE上の登録名とアイコン画像のみの匿名でご相談いただけます



困難な問題を抱える女性の自立に向けたサポート

大阪市女性相談支援員

電話相談 06-6208-7289
平日9:00～17:00
※必要に応じて、関係機関への同行・緊急避難・自立支援等



特集 つながり社会の中に ～若者支援から考える 誰も孤立しない社会～

- 【連載まんが】
ジャンプちゃんおしえて！男女共同参画ってなあに？
ep.11「家事は誰がやるの？」
- 【連載コラム】
男性相談から考える社会と私たち
「男」の子育て
- 【研究室長コラム】
もっと知りたい！クレオ大阪
男女共同参画センターと子育て
- 無料セミナー＆イベント情報(8月～12月)
- 【女性チャレンジ応援拠点ロールモデル紹介】
チャレンジの先輩に聞く！活動の始め方・続け方のヒント
庄司 佳奈さん(城東区東中浜地域活動協議会 会長)



特集

Interview

つながりを社会の中に

若者支援から考える 誰も孤立しない社会



社会の変化とともに、つながりが
いっそう希薄になる中で孤立や生き
づらさを抱える若者も少なくありま
せん。誰もが尊重され、自分らしく生
きる社会を実現するために、今、私た
ちに求められていることは何でしょ
うか。子ども・若者支援に取り組む、
今井紀明さんにお話を伺いました。

声を受け止め、支援へつなぐ

—現在の活動を始めたきっかけを教えてください。

活動の背景には自分自身の経験があります。私が高校1年生の時に起きた9.11(アメリカ同時多発テロ事件)をきっかけに、紛争や貧困の中で、理不尽な状況に置かれている海外の子どもたちの現実を知り、強い問題意識を持つようになりました。その状況を変えたいという思いから子ども支援の活動を始めましたが、19歳になる年にイラク人質事件に巻き込まれ、帰国後に大きなバッシングを受けました。PTSD^(※1)やパニック障害を経験し、4～5年ほど苦しい時期が続きましたが、家族や友人、高校の恩師に支えられながら、少しずつ社会生活を取り戻していきました。その後、海外支援のボランティア活動等に参加し活動が続ける中で、日本の若者の状況にも危機感を抱くようになりました。海外では紛争や貧困など、目に見えやすい困難がある一方、日本では一見すると見えにくいものの、生きづらさや孤立を抱え、誰にも頼れずにいる若者が増えていると感じたからです。令和7(2025)年の小中高生の自死者数は、昭和55(1980)年以降、過去最多となっています。そのことから、深い孤立や生きづらさを抱えていることがうかがえます。行政や企業だけでは支援が届きにくい領域がある中で、つながりを社会の中につくり、孤立させないセーフティネットを広げるためにNPO法人D×P(ディーピー。以下「D×P」という)を設立し、活動を続けています。

—具体的にどのような取組をおこなっていますか。

D×Pでは、13歳から25歳までの子ども・若者を対象に、オンライン相談事業「ユキサキチャット」や、大阪・ミナミで「ユース

センター」の運営などを行っています。

自死やいじめに関する相談窓口は、これまでも行政などによって整備されてきましたが、生活や福祉に関わる困りごとをオンラインで気軽に相談でき、その後の支援につなげる仕組みは、まだ十分とは言えない状況です。こうした中、「ユキサキチャット」は、若者の声を受け止め、必要な支援へとつなぐ重要な役割を担っています。相談を起点に、進学や就職、福祉制度の利用につなげ、生活の安定に向けて伴走しています。

一方で、繁華街には孤立した状態にある若者や、支援を必要としても自ら相談することが難しい若者が多くいます。「ユースセンター」では、そうした若者が安心して立ち寄れる居場所をつくり、関係を築いていくことを軸としています。「相談するための場所」ではなく、友人と立ち寄ったり、一人で過ごすこともできる“居場所”として運営しています。食事の提供などを通して交流し、居場所を求める若者が、自然な形で相談につながる環境を整えています。「関わり」を続ける中で、住まいやお金、妊娠、性被害といった様々な問題が少しずつ見えてきます。

性別や環境が生む孤立と生きづらさ

—若者の生きづらさの背景にある社会的な課題について教えてください。

まず現場で感じるのは、「つながり」が本当に少なくなっているということです。核家族化が進み、親戚や近所、地域との関係も希

薄になる中で、安心して過ごせる居場所や人とのつながりを持つ機会が減っています。子どもたちを取り巻く環境が変化する中で、家庭や学校で困難を抱えた場合に、支えとなる場所が少なく孤立しやすい状況になっているのです。

「ユキサキチャット」では、相談者の約7割が女性です。寄せられる相談には、不登校や虐待、家庭内の不和、経済的困窮などが重なっているケースも多く、相談につながる女性の中には、働いていても非正規雇用などの働き方により、経済的に不安定な状況に置かれている人も少なくありません。また、経済的な余裕がない中では、生理用品や化粧品など日々の生活に必要な物品の購入も大きな負担になることがあります。こうした状況も踏まえ、食糧支援の際に生理用品も届けるなど、一人ひとりの状況に応じた支援を行っています。

「ユースセンター」には、様々な困難を抱える若者が訪れます。「夜の仕事」に従事せざるを得ない状況に置かれている若年女性や、住まいを失い生活基盤が不安定な若者など、抱える課題は性別や環境によって異なります。課題の中で共通して見えてくるのは、相談することへの心理的ハードルの高さです。特に男の子の場合は、「男は強くあるべきで、人に弱さを見せてはいけない」といった「男らしさ」に縛られ、相談することに強い抵抗を持つケースがあります。固定的な性別役割分担意識も、相談のしづらさや生きづらさにつながっていると感じます。

また、D×Pでは、妊娠や性に関する相談にも対応していますが、性教育についても、社会全体としての取組が不足していると感じます。一因として、SRHR^(※2)の考え方が、まだ十分に広がっていないということが挙げられます。「身体を大切にすること」「相手を尊重すること」「自分らしさを知ること」も含めて、性教育というも



支援物資を箱詰めする様子。若者とのつながりを支える取組の一つです。

今井 紀明さん

(認定NPO法人D×P 理事長)

昭和60(1985)年札幌生まれ。高校生のとき、イラクの子どもたちのために医療支援NGOを設立。その活動のために、当時、紛争地域だったイラクへ渡航。その際、現地の武装勢力に人質として拘束され、帰国後「自己責任」の言葉のもと日本社会から大きなバッシングを受ける。結果、対人恐怖症になるも、大学進学後友人らに支えられ復帰。偶然、中退・不登校を経験した10代と出会う。親や先生から否定された経験を持つ彼らと自身のバッシングされた経験が重なり、平成24(2012)年にNPO法人D×Pを設立。平成27(2015)年に認定NPO法人としての認定を取得。



認定NPO法人D×P
ホームページ



のは本来幅広いものです。自分自身を大切にし、他者との関係を築いていくためにも、こうした学びが広がっていくことが重要だと考えます。



「ユースセンター」の様子。交流を通じて安心して過ごせる居場所となっています。

未来に希望を持てる社会に向けて

—一人ひとりが尊重される社会のために、私たちにできることを教えてください。

私たちができることは、先入観で人を見ず一人ひとりの声に耳を傾けることではないでしょうか。近年は趣味や嗜好、働き方や生き方も多様化しています。かつてのように多くの人が同じものを共有する時代でなくなっているからこそ、「若者はこういうもの」「女性だから」「男性だから」と一括りにするのではなく、その人自身に関心を持ち、理解しようとする姿勢が求められています。社会が変化する中で、安心して過ごせる環境や自分の気持ちを受け止めてくれる人とのつながりは欠かせません。

D×Pでは、否定せず関わる姿勢を大切にしています。本人が自分のタイミングで一歩踏み出せるよう寄り添いながら関わっています。人にはそれぞれ異なるペースやタイミングがあります。答えをすぐ一つに決めつけるのではなく、その人に合った歩みを支えていくことが大切です。安心して信頼できる関係の中でこそ、自分の可能性や選択肢に気づき、本来の力を発揮できるのだと思います。一人ひとりの違いや生き方が尊重され、希望を持って生きられる社会になることを願っています。

(※1) PTSD(心的外傷後ストレス障害) … 死の危険に直面した後、その体験の記憶が自分の意志とは関係なくフラッシュバックのように思い出されたり、悪夢を見たりすることが続き、不安や緊張が高まったり、辛さのあまり現実感がなくなったりする状態。

(※2) SRHR(Sexual and Reproductive Health and Rights) … 性と生殖に関する健康と権利。自分の身体や性や生殖について、誰もが十分な情報を得られ、自分の望むものを選んで決められること。





ジャンプちゃん
おしえて!

ep.11

家事は誰がやるの?

男 女 共 同 参 画

だんじょ きょうどうさんかく

クレオ大阪
マスコットキャラクター
ジャンプちゃん

男女共同参画について
かわいく、わかりやすくまんがで解説!
ジャンプちゃんと一緒に、学んでみましょう!

作者:あい
二児のママのコミック作家。
Instagram(@yui_dondon)などで
漫画を発信中。



大阪市女性活躍リーディングカンパニー 令和7年度市長表彰受賞企業に聞く

みんなが輝く職場のヒント

大阪市では、女性が活躍できる職場づくりを積極的に進めている企業等を「大阪市女性活躍リーディングカンパニー」として認証しています。令和7年度市長表彰 中小規模企業部門で最優秀賞を受賞した、株式会社イベント・トゥエンティ・ワンのご担当者様に、誰もが働きやすい職場づくりの工夫や取組についてお話を伺いました。

令和7年度 大阪市女性活躍リーディングカンパニー 市長表彰 中小規模企業部門 最優秀賞

株式会社イベント・トゥエンティ・ワン

令和7年度「大阪市女性活躍リーディングカンパニー市長表彰」最優秀賞の受賞、おめでとうございます。改めて、御社の女性活躍推進に関する取組について教えてください。

当社は、性別を問わず能力や成果に応じて挑戦し、成長できる組織づくりを進めています。平成29年度以降、新卒社員は女性が毎年50%以上を占め、営業やマネジメントなど幅広い分野で活躍しています。さらに、客観的な評価(アセスメント)を活用した公正な評価制度を整備し、能力や意欲の高い社員を積極的に役職へ登用してきました。その結果、女性管理職が誕生し、女性がリーダーとして活躍する姿が社内で見られるようになりました。今では「女性だから役職は難しい」という固定観念が消え、性別に関係なく挑戦を後押しする企業文化が定着しています。

受賞後、どのような変化がありましたか?

受賞後は、社内外から大きな反響がありました。特に採用面では、当社の取組に共感した学生からのエントリーが増えています。また、社員にとっても今回の受賞は大きな喜びとなりました。取組が公的に評価されたことで誇りが高まり、ダイバーシティ&インクルージョン(D&I)※への意識もいっそう深まっています。

※D&I…一人ひとりの個性を認め合い、誰もが活躍できる環境を自分たちで創りあげること。



社内では多くの女性社員が活躍。女性管理職比率は62.5%に。



「you happy, we happy!」の理念のもと、全社一丸で挑み続けるイベント21。

Q 女性活躍推進に関する取組のきっかけを教えてください。

16～17年前、事業拡大を進める中で人材確保が大きな課題となりました。当時は男性社員4名のみで、体力を要する業務も多いイベント業界では「女性が活躍するのは難しい」という考え方が一般的でした。

そんな中、親交のある経営者から「育児中の母親が働きやすい環境づくり」について話を聞きました。意欲や能力があっても柔軟な勤務環境がないため働く機会を得られていない女性が多い現状を知ったことが、取組を進めるきっかけとなりました。

そこで、正社員の女性採用を積極化し、説明会やホームページで女性社員の活躍を発信するなど、働く姿を具体的にイメージできるよう工夫しました。さらに、結婚・出産後も働き続けられる勤務制度を整備し、働きやすい職場づくりを進めました。女性管理職の誕生を通じて活躍が可視化され、現在では性別を問わず管理職に挑戦する文化が生まれています。

Q 今後の展望を教えてください。

今後も、性別や年齢に関係なく、一人ひとりの個性や強みを生かして活躍できる組織づくりを進めます。「女性だから」といったバイアスにとらわれず、「あなたは何をやりたいのか」「個性をどう生かせば挑戦を実現でき、成果を出せるのか」を仲間とともに考え、支え合う企業文化をさらに育んでいきます。これからも「you happy, we happy!」の理念のもと、誰もが自分らしく輝ける組織づくりを推進し、誰もが活躍できる社会の実現をめざします。

- 企業プロフィール
- 事業内容: ハッピークリエイト業(サービス/イベント用品 レンタル、会場設営・施工等)
 - 従業員数: 166名(令和8(2026)年6月1日時点)
 - 女性従業員比率: 56.6%(94名/166名 パート・アルバイト含む)(令和8(2026)年6月1日時点)
 - 女性管理職比率: 62.5%(20名/32名)(令和8(2026)年3月20日時点)

大阪市の女性活躍推進に関するポータルサイト
「きらめく女性の応援ひろば～未来ヘレディGo!～」も
ぜひご覧ください。



解説コラム

みなさんは「家事」という言葉からどんなものを思い浮かべますか? 「料理、洗濯、掃除」など、すぐにイメージできるものから、例えば、トイレトーパーパーや洗剤の補充、ペットボトルからキャップや包装を分別する、登園する子どもの持ち物を用意するなど、小さなことのように見えても、毎日数えきれない量の「家事」が生まれ、それを担う人がいます。「自分で全部やらなければ」、「言われたら手伝おう」と思ってしまういませんか? 様々な家事に目を向け、家族みんなで分け合えば、家の中のことがスムーズにすすみ、気持ちよく暮らせるようになります。これも、男女共同参画社会実現のための大切な一歩です。お互いを思いやりながら、心地よい暮らしにつなげていきたいですね。



チャレンジの先輩に聞く！

活動の始め方・続け方のヒント

大阪市内では、おおむね小学校区ごとに「地域活動協議会」があり、地域団体や社会福祉協議会、PTA、NPO、企業などの団体が協力しながら、まちづくりに取り組んでいます。地域活動協議会は、地域の実情に応じて様々な人・団体が協力し、防災訓練や見守り、清掃活動、地域のお祭りなどを通じて、地域コミュニティの活性化や地域課題の解決に向けて活動しています。大阪市では327地域に設置されています(令和7(2025)年1月時点)。

今回は城東区東中浜地域活動協議会の会長として、住みよいまちづくりに取り組む庄司佳奈さんにお話を伺いました。



庄司 佳奈さん(城東区東中浜地域活動協議会 会長)

きっかけはPTA活動

庄司さんの地域活動の始まりはPTA活動でした。「子どもが迷子になったり、急に体調が悪くなったりして困ったときに、周囲の人から声をかけてもらえるように」との気持ちから、小中学校のPTAに加え、区や市のPTA活動にも関わるようになりました。さらに、小学校の総合学習やクラブ活動、地域行事などを支える「はぐくみネット(小学校区教育協議会)」のコーディネーターも務め、地域とのつながりの大切さを実感しました。「5年、10年先も安全・安心に暮らせる地域にしたい。子どもたちが大人になっても帰ってこられる“ふるさと”のようなまちにしたい」。そうした思いから、庄司さんは地域活

動に参画するようになりました。

その後、現在の地域に引っ越した際、当時の連合町会長からマンションで町会を立ち上げてほしいという話がありました。庄司さんは、子どもたちが地域行事に参加する環境を整えたいと実行委員会を立ち上げ、たくさんの方々との対話を重ねながら、約1年かけて町会を設立しました。しかし、立ち上げ後に会長の担い手がいなかったため、庄司さん自身が会長を引き受ける決断をされました。その後、地域活動協議会に加わり副会長を経て、現在は5期目の会長を務めています。

多様な担い手が多様な活動をつくる

東中浜地域活動協議会は、「地域をどのように残したいか」という思いや、「笑顔を守りたい」という願いを持って日々活動しています。庄司さんは、協議会の「アクションプラン・プロジェクトチーム」に所属し、チームリーダーとして地域の多様な取組を企画・推進する中心的な役割を担っています。協議会の活動は、高齢者見守り隊・子ども見守り隊をはじめ、認知症カフェ「ほほえみカフェ」、居場所づくりの「ほほえみひろば」など多岐にわたります。さらに東中浜まちの保健室や、青少年健全育成および世代間交流事業よさこい「TEAMさくら」、地域から子どもたちへ生きる力を伝える中学校での防災教室、あいさつ運動のポスターの作成などにも取り組んでいます。

また、発達障がいがあるお子さんの保護者の方からの「地域での生活に不安がある」という声が寄せられたことをきっかけに、地域の方々が共通して感じている「困りごと」を共有する勉強会を継続して開催しています。さらに災害時に地域を守るため、防災マニュアルの

活動の輪を広げる

自分が住む地域でどのような活動が行われているのか、興味があっても知るきっかけがない方も多いかもしれません。そうした人に庄司さんが勧めるのは、「まずは単発のイベントでボランティアとして参加してみること」です。例えば、催しのゲームコーナーの担当など、楽しみながらできそうなことから始めてみてはどうでしょうか。実際に関わってみることで、地域の雰囲気や人のつながりなど、感じることや見えてくるものがあるかもしれません。庄司さんは、こうした「きっかけづくり」をもっと広げていきたいと考えています。

地域活動には、会議資料や事業報告書の作成、会計業務など、地道な作業も少なくありません。自分の時間を費やし、自分のやりたいこ

とができずに後悔することもあります。それでも、イベントで子どもたちが喜ぶ姿を見たときや、メンバーみんなで力を合わせてやり遂げたときなど、やりがいを感じる場面が多くあるそうです。

庄司さんは、次の世代にこのまちをどう残すかを考えながら、自分たちのまちの魅力を高め、住みやすく満足度の高い「選ばれるまち」にしたいと、前向きな取組を続けてこられました。その熱意は周囲にも伝わり、次の担い手へと受け継がれていくことでしょう。



認知症カフェ「ほほえみカフェ」の様子

男性相談から考える
社会と私たち

「男」の子育て

父親は母親にかなわない？

私が以前、乳幼児を育てている父母に尋ねた意識調査では、「子育てで父親は母親にはかなわないと思う」という設問に対し、8割の父親が「非常にそう」「まあまあそう」と回答していました。母親の約半数も同様の回答をしています(図1)。同じ調査で「子育てにおいて父親はなくてはならない存在である」については、両親とも9割以上が肯定していましたが、「非常にそう」が、母親62.7%、父親42.4%と少し温度差を感じました(図2)。「子育ての中心は母親で、父親はそれを支える存在」という意識がうかがえるような結果です。社会の変化とともに意識も変化しているかもしれませんが、令和7(2025)年8月号の小欄でご紹介した「パパカフェ」^(※1)では、最近でもこうした意識が一部のお父さんには根強く残っているのを感じます。

私たちがパパカフェを始める前に、父親インタビューで聞いた、「おっぱいは必殺技。あれが使えるママはずるい」、というあるお父さんの言葉が印象的でした。その後も、乳幼児の寝かしつけは妻にはかなわない、といった声をしばしば耳にしてきました。確かに母親だからこそ担える役割はあります。しかし、だからといって父親の役割が薄れるわけではありません。みなさんはどう思われるでしょうか。

「父性」と「母性」のバランス

特にお子さんが小さい時期の子育てには、一般的に「母性」の重要性が強調されることがあります。ここで言う「母性」とは、「つながる」機能であり、あらゆるものを受容し、育む力をさしています。お子さんの成長にとっては不可欠な関わりです。しかしそれには同時に、ユング心理学でグレートマザー^(※2)と言われるような、「飲み込む」動きも含まれています。行き過ぎると母性の渦の中から子どもが出られなくなってしまう、子どもの自立を妨げる危険性もあるのです。

父親を経験することで男性のところが育つ

私は、父親として子育てに関わることは、男性自身のころの成長にとっても大きな意味があると考えています。子育ては、大人の思い通りにならないことの連続で、曖昧さや混沌に向き合う経験でもあります。これは、従来の男性優位社会の中で、家庭から遠ざけられ、社会の理屈や効率を重んじがちになっていた男性にとって、全く新しい体験にもなり得ます。

「子育ては、父親自身のころ育て」というのは私自身の実感で



濱田 智崇さん
(京都橋大学総合心理学部准教授、臨床心理士・公認心理師)
平成7(1995)年、日本初の男性相談『男』悩みのホットラインを開設し、各地の自治体での男性相談事業にも携わる。平成23(2011)年～男性専用のカウンセリングオフィス天満橋代表。令和元(2019)年～一般社団法人日本男性相談フォーラム理事。主著書『男性は何をどう悩むのか 男性専用相談窓口から見る心理と支援』(平成30(2018)年 ミネルヴァ書房)

図1 子育てで父親は母親にはかなわないと思う

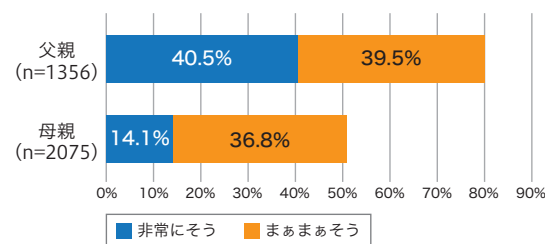
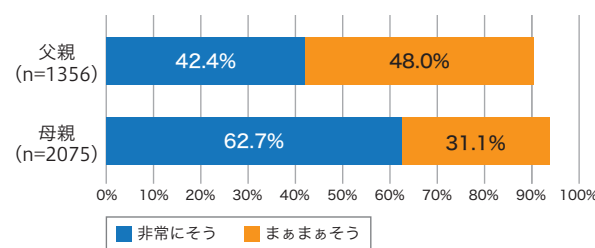


図2 子育てにおいて父親はなくてはならない存在である



出典:濱田智崇 子育て環境と子どもに対する意識調査(草津市版)結果報告 京都橋大学心理臨床センター「心理相談研究」第3号 平成29(2017)年

そこで大切になるのが「父性」の機能です。ここで言う「父性」とは「きりはなす」機能であり、密着した母子関係から適度な距離をもたらし、子どもの自立を促す力です。母性的な要素と父性的な要素は、現れ方には個人差がありますが、性別に関わらず、すべての人の心の中に存在するものです。「お母さんが母性、お父さんが父性」という固定的な捉え方にとらわれず、シングルファザー・マザーも含め、両方の機能のバランスを意識しながら、子どもと関わるのが大切なのかもしれません。

もあります。娘が4歳の時、ひとつ実験をしてみたことがあります。あえて完全に我が子のペースに任せて、一切促したり手伝ったりしなかったのです。結果、「公園へ行こう」と2人で話がまとまってから、実際に家を出るまでに、3時間10分かかりましたが、子どもの気持ちを受け止めることや、見守ることの意義を考えさせられる機会になりました。みなさんも、よろしければ時間のある時に一度試してみてはいかがでしょうか。

※1 パパカフェ・・・子育て中のパパ同士が交流する場。クレオ大阪子育て館でも定期的に開催している。今後の開催予定は、8/29、10/17、12/19です。詳しくはクレオ大阪子育て館までお問い合わせください。
※2 グレートマザー・・・全てのものを育み、育てる偉大な母のイメージ。ユングによれば、全人類の無意識に共通して存在する「元型」の一つで、神話や昔話にも登場する。育む一方で、すべてを飲み込む否定的な側面も持つ。



もっと知りたい！クレオ大阪 ～男女共同参画センターと子育て～

案内役
服部 良子
クレオ大阪中央 研究室長



クレオ大阪をもっと身近に感じていただく連載企画です。クレオ大阪は、男女共同参画に関する様々なセミナーを実施していることは前号でご紹介しました。今号では、クレオ大阪が実施している子育て支援に関連する事業について紹介します。

男女共同参画と子育て支援はどういうつながりがあるのですか

平成11(1999)年に成立した男女共同参画社会基本法の第6条で、家事・育児・介護などの家庭での役割を男女ともに、社会のサポートを受けながら、仕事や地域活動など他の活動と両立できるようにすることが理念として定められています。従来の「男性は仕事、女性は家庭」という固定的な性別役割分担意識は、女性のキャリア形成を阻み、男性の育児参画を遠ざけてきました。誰もが活躍できる男女共同参画社会の実現には、子育て

で負担の偏りをなくし、育児を社会全体で支える仕組みが欠かせません。男女ともに仕事と育児を両立できる環境づくりを官民一体となって進展させていく必要があります。両立に向けた重要なサポートの一つが子育て支援であり、今日の日本では、子育て支援と男女共同参画がつながることによって、お互いの施策効果が高まる関係にあるといえるでしょう。

クレオ大阪で実施している子育て支援事業を教えてください

クレオ大阪5館では、男女共同参画の視点から幅広いテーマの事業を行っています。子育て支援もその一つです。クレオ大阪の子育て支援事業では、「育児は女性の役割」という固定観念を見直し、性別に関わらず誰もが主体的に子育てに関わり、協力し合えることをめざしています。また、子育て中の保護者の学びや自己実現の機会の確保を提供するとともに、自分の時間を持ち、他者と交流することで、育児ストレスや社会的な孤立感を軽減することも目的にしています。子育て支援に関するセミナーのほか、一時保育や「保育室開放デー」、「本を読む日」(クレオ大阪の情報・図書コーナーで本を読んだり調べ物をしたりする間、お子さんを保育室で預かる事業)など、様々な子育て支援事業を展開しています。

クレオ大阪5館の中でも、特にクレオ大阪子育て館は、男女共同参画の目線で子育て支援事業を重点的に実施しています。例えば、クレオ大阪子育て館では、パートナーが出産を控える男性を対象にした「プレパパ講座」を実施しています。この講座では、沐浴体験をはじめ、家事育児分担をシミュレ

ーションするワークや公共の支援制度を知ることを通して、赤ちゃんがいる生活を具体的にイメージすることで、男性がより主体的に育児に関わりやすくなることを目的としています。加えて、パパ同士の交流から、不安なのは自分だけじゃないと気づき、安心して本音が話せる場をつくることもめざしています。

また、保護者をサポートする存在として、子育て支援に携わる人々への支援も行っています。クレオ大阪5館での一時保育を支えるボランティア対象の研修会も定期的に実施し、ボランティア活動中の方への継続的なスキルアップの機会を提供しています。

このように、クレオ大阪子育て館では、子育て中の方が、安心して子育てに取り組むことができるよう、「プレパパ講座」のような男女共同参画の視点から保護者へのサポートをする事業に加え、地域や社会において子育て支援に携わる人々への研修や人材育成、遊具の貸出しなどの後方支援も同時に行うことで、社会全体での子育て活動を支えています。

子育て支援セミナー 「プレパパ応援！パパのための出産準備講座」



赤ちゃんの沐浴体験や家事・育児分担をシミュレーションするワークを通して、男性がより主体的に学び、交流できる。

保育ボランティア研修



クレオ大阪の一時保育を担うボランティアを対象にスキルアップ研修を実施。(テーマ:「その子らしさ」を大切にする保育)

変化する子育てにどう対応したらよいでしょうか？

学校教育の変革、ICTの活用、多様化する価値観など、社会構造が急激に変化しており、「自分が育てられた経験」や「過去の常識」がそのままでは通用しない時代になりました。そもそも、子育てはどんなに準備をしても、実際に我が子を目の前にすると誰もが「初めて」の連続で、手探り状態になることが多いものです。

そういった社会の状況に加え、核家族化や働く女性の増加など、家族構成やライフスタイルもまた大きく変化しています。女性も男性も働きながら子育てする家族が増加している一方で、共働き家族でも子育ての中心が女性である状況は続

いています。もちろん徐々に子育てに積極的に関わる男性も増加しています。共働き家庭における男性の家事関連時間は増加傾向にあり、平成18(2006)年の57分から約2倍にまで増えています。しかし、女性が391分であるのに対し、男性は114分にとどまっています(図1)。男性の長時間労働傾向は未だ続いており、このことが男性の家庭や地域での活躍を阻害する一因になっていると考えられます(図2)。

女性も男性も仕事と家事・育児の両立に苦労している現状を踏まえると、男女共同参画の視点も加えた子育て支援事業が今後の社会にとって必要だと考えられます。

図1 6歳未満の子どもをもつ妻・夫の家事関連時間(週全体平均)

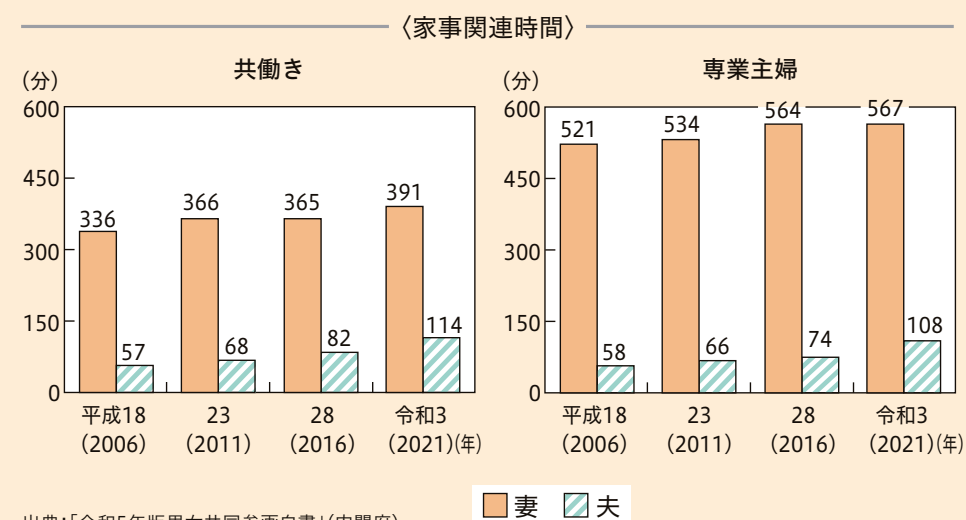
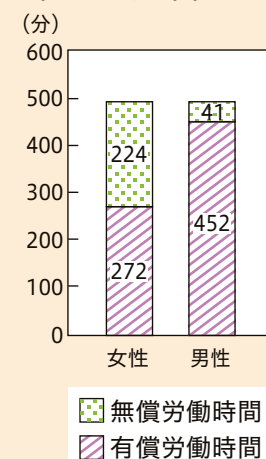


図2

男女別に見た生活時間
(週全体平均)(1日当たり)





クレオ大阪

各館の無料セミナー&イベント情報

実施会場：クレオ大阪 中央

はたらくを学ぶ。
～若手社会人のための集中スタートアップセミナー～

9/4(金) ①10:00～13:00 ②14:00～16:00



社内研修や同期との学びの機会が少ない若手社会人の皆さん。コミュニケーションやワーク・ライフ・バランスなどを学び、キャリアについて考えながら、業種を超えた仲間とのつながりを広げてみませんか。

- 講師 ①竹本 記子(ナラティブ・エナジー 代表)
②湯本 理絵(あわい舎 代表)
- 定員 30名(申込先着順)
- 対象 30歳未満の方

映画『私は男女平等を憲法に書いた』から学ぶ日本国憲法

ドキュメンタリー映画『私は男女平等を憲法に書いた』の上映と解説をします！ジェンダー平等の視点から日本国憲法を学びませんか。

●日時 9/25(金) 18:45～20:00 映画(DVD)上映
20:10～21:00 解説

- 講師 松岡 千紘(同志社大学 助教)
- 定員 70名(申込先着順)
- 対象 テーマに関心のある方

実施会場：クレオ大阪 子育て館

ママパパ・孫と仲良くすごすための孫育て講座

①9/27(日) ②10/4(日) 10:30～12:00(全2回)



おばあちゃんおじいちゃんが、忙しいママやパパの子育てをサポートしたい！という思いはありがたいもの。子育ての常識は日々変わっています。現代子育ての正しい知識と楽しい孫育てのための心構えを学びましょう！

- 講師 ①山口 多佳子(陽だまり助産院 助産師・保健師)
②小牧 義孝(社会福祉法人大阪市淀川区社会福祉協議会 事務局長・保育士・社会福祉士)
- 定員 50名(申込先着順)
- 対象 どなたでも

「子どもと関わる仕事」をしたいあなたへ
～就職・転職応援セミナー～

児童福祉に関連する施設や子どもに関わる職種や資格、具体的な探し方などについて知ること、就職や転職への一歩を応援します。

- 日時 ①10/20(火) ②10/27(火) 10:30～12:00(全2回)
- 講師 ハローワーク梅田 就職支援ナビゲーター
- 定員 30名(申込先着順)
- 対象 どなたでも



3か月～小3
申込締切 10/10(土)

実施会場：クレオ大阪 西

もしもに備える家族防災・避難訓練コンサート
9/12(土) 14:00～15:15

- ①「もし、外出先で被災したらどうすればいい？」
「おでかけ時のもしもに備える防災グッズ」
- ②避難訓練コンサート

電車やバスの中、いつも買い物にいくお店の中…もし、子どもと一緒に出かけ先で被災してしまったら？家族のいのちを守るために、外にいるときのものもの備えについて考えてみませんか？



- 講師・出演 ①一般社団法人あおぞら湯 スタッフほか
②大阪市立梅香中学校 吹奏楽部
- 定員 200名(申込先着順)
- 対象 どなたでも

国際ガールズデーセミナー

英語で話そう！世界のジェンダー、わたしたちの未来

世界の子どもたち、ジェンダー、そして自分の夢について、英語で話してみよう！国際的な視点で、あたらしい発見があるかも!? 保護者の方と、ぜひお越しくください。

- 日時 10/10(土) 14:00～15:30
- 講師 ケイトリン・プーザー(株式会社Guardian 共同創業者・代表取締役)
- 定員 50名(申込先着順)
- 対象 小学生とその保護者

実施会場：クレオ大阪 南

スモールビジネス起業支援セミナー
わたしサイズで始めるしごとづくり

9/26、10/10、11/14、12/12 各土曜日10:00～12:00(全4回)



“小さく始める”をキーワードに、起業の基礎知識から無理なく続けるためのコツまでをわかりやすく学びます。女性特有のライフステージの変化を想定し、自分らしい働き方への一歩を、一緒に考えてみませんか。

- 講師 佐々木 美香 (MIKA JAPAN 代表) ほか
- 定員 40名(申込先着順)
- 対象 女性



1歳～就学前
申込締切 各回10日前

認知症を考える映画上映会

『げげますから、よろしくをお願いします。～おかえりお母さん～』

認知症と向き合う家族の姿を描いたドキュメンタリー。映画を通して、自分や大切な人とのこれからを考えてみませんか(DVD上映)。

- 日時 10/17(土) 13:30～15:20
- 定員 200名(申込先着順)
- 対象 どなたでも



1歳～就学前
申込締切 10/7(水)

実施会場：クレオ大阪 東

被災者のこころのケアについて考える
～『こわれること いきること』映画上映会&講演会～
9/13(日) 10:30～13:30

東日本大震災で家族を亡くした介護士を主人公とした映画『こわれること いきること』(DVD)の上映と、災害がもたらす精神的影響や、被災者やその家族のこころのケアのためにできることについての講演を行います。

- 講師 瀬藤 乃理子(兵庫県こころのケアセンター 上席研究主幹)
- 定員 200名(申込先着順) ●対象 どなたでも



1歳～就学前
申込締切 9/3(木)

プロ講師になろう塾 chance2026

多様な働き方のひとつに起業や講師業があります。女性のチャレンジを応援する本セミナーも今年で16回目を迎えます。やってみたい思いと本気で向き合ってみませんか。実践の場として「冬の1日講座byプレ「プロ講師」」を体験できます。

●日時 8/29、9/5・19、10/3、11/7・21、12/12・26 各土曜日
13:00～16:00(全8回)※11/7は10:00～16:00、11/21、12/26は14:00～16:00

- 講師 リー・ヤマネ・清実(中小企業診断士)、山崎 紗耶加(税理士)
- 定員 30名(締切後抽選) ●対象 「セミナーを足掛かりに自分の業を発展させたい」「自分のやりたいことを多くの人に伝えたい」等と考えている女性



1歳～就学前
申込締切 8/19(水)

＼こんなん/
読んでみた図書コーナースタッフが、
クレオ大阪 情報・図書コーナーで
見つけた気になる本をご紹介します！

スタッフ N



スタッフ K

N 今号では、若者の生きづらさや家事分担について考える特集やマンガがありましたね。

K 今回はそれにちなんで、この本から紹介します。『家族全員自分で動くチーム家事』です。

N チーム家事？どんな内容なんですか？

K 家事を誰か一人が抱え込むのではなく、みんなで協力しながら暮らしていくための工夫がたくさん詰まった本なんです。パートナーとの話し合い方や、子どもが家事に参加するためのヒントも紹介されています。

N 家事のやり方そのものというより、どう助け合うかについて注目している本なんですね。

K 家族をひとつのチームとして考えて、みんなで協力しながら支え合うという発想に、なるほどと思うところがたくさんありました。

N 家庭ごとにあった「チーム家事」の形が紹介されているのも、参考にしやすいですね。では、私が紹介するのは、『ファイティング・チャンス』です。



『日本唯一の家事シェア研究家が導き出した家族全員自分で動くチーム家事』
三木智有 著
ディスカヴァー・トゥエンティワン



『ファイティング・チャンス』
ルイーザ・リード 作
金原瑞人・八木赫子 訳
岩波書店

K 力強いタイトルと表紙ですね。ストーリーが気になります。

N 主人公は16歳の少女リリーで、学校でのいじめでつらい思いをしていた彼女が、勇気をだして親に相談したことをきっかけに、未経験だったボクシングを始め、自信を少しずつ取り戻していく物語なんです。

K 自分に自信が持てずにいる人に、勇気を与えてくれそうな内容ですね。

N 信頼できる仲間との出会いや挑戦によって成長していくリリーの姿から、自分らしく生きることのヒントをもらったような気がしました。

K 主人公の変化に心動かされる人も多そうですね。今回紹介した2冊に共通しているのは、自分や周りの人と向き合いながら、それぞれに合った暮らし方、生き方を見つめていくところかもしれませんね。

N こうした視点が、少しずつ広がっていくといいですね！

【情報・図書コーナーからのご案内】

今回ご紹介した本を含む図書、雑誌、漫画、DVDは、1枚の図書カードで、クレオ大阪5館共通でご利用いただけます！



詳細はこちら



セミナーの申込方法

- 大阪市内在住・在学・在勤の方が対象です。
(その他の対象は各セミナーの詳細をご覧ください)

ホームページから申込

クレオ大阪(講座・イベント検索)からお申込みください。



電話・FAX・来館で申込

実施会場のクレオ大阪各館にお申込みください。



一時保育マーク
(一時保育あり・事前申込：
子どもの名前(ふりがな)・
生年月(西暦○年○月生))

子どもの年齢	保育料 (子ども1人1回あたり)
1歳～3歳未満	800 円
3歳0か月～就学前	500 円
子育て館のみ 3か月～小3	無料

- このほかにも、様々なセミナーを開催しています。
一時保育付きや手話通訳付き、オンラインで参加できるセミナーもあります。詳しくは、ホームページをご覧ください。